

ヤスハラケミカル  
環境・社会報告書

2024

自然と暮らしを  
科学でつなぐ。



ヤスハラケミカル株式会社

# CONTENTS

- CONTENTS / 会社概要 / 編集方針
- ヤスハラケミカル ～私たちの考え方～
- TOP MESSAGE
- 特集** イノベーション推進室
- 経営分野  
中長期的経営方針 / 財務ハイライト / 部門別状況
- 環境・安全分野  
環境・安全に関する基本方針 / 推進体制  
**【目標達成状況】**  
2023年度の具体的目標と実績 / 優良危険物取扱者表彰
- 【事業活動における環境配慮への取り組み】**  
エネルギー原単位 / CO<sub>2</sub>排出原単位 /  
大気汚染物質の排出量 / 特定排水COD負荷量 /  
産業廃棄物排出原単位 / PRTR対象物質の排出・移動量  
**【安全衛生への取り組み】**  
労働災害発生件数の推移 / 休業災害度数率の推移 /  
安全衛生・環境に関する資格の保有者数
- 社会分野  
**【お客様への取り組み】**  
品質管理  
**【株主・投資家の皆様への取り組み】**  
株主総会 / IR活動 / 株主還元  
**【従業員への取り組み】**  
仕事と家庭の両立支援 /  
サステナビリティ研修、情報リテラシー研修  
**【地域社会への取り組み】**  
清掃活動 / スポーツ支援 / 地域防災への参加 / 職場体験学習

## 会社概要

商号 / ヤスハラケミカル株式会社  
YASUHARA CHEMICAL CO., LTD.  
本社 / 〒726-0013  
広島県府中市高木町1071番地  
創業 / 1947年(昭和22年)4月  
設立 / 1959年(昭和34年)2月24日  
決算月 / 3月  
資本金 / 17億8,956万円  
主な製品 / ■テルペン樹脂事業  
(テルペン系樹脂)  
■化成事業  
(合成香料原料、テルペン溶剤、ワックス)  
■ホットメルト接着剤事業  
(ホットメルト接着剤)  
■ラミネートフィルム事業  
(光沢ラミネートフィルム)  
従業員数 / 230名(2024年3月31日現在)  
証券コード / 4957

### 「環境・社会報告書2024」の発行について

ヤスハラケミカルは、企業活動全般を通じて、持続可能で豊かな暮らしの実現を目指しています。当社の理念に基づく取り組みをご報告し、より多くの方々にヤスハラケミカルの事業活動を知っていただくことを目的に2008年より、環境報告書を発行してきました。2016年からはタイトルを「環境・社会報告書」と改め、地域社会での活動などの社会性報告に加え、経営ビジョンや財務情報についてもご報告しています。

当社は、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行っています。また、お客様、お取引先様、株主・投資家の皆様、従業員、地域社会を大切なパートナーと考え、様々な社会活動を続けています。

今後も、パートナーの皆様からのご意見を伺いながら、さらに情報の拡充を図り、よりわかりやすい報告書へと進化させてまいります。

### 編集方針

- 報告対象範囲  
ヤスハラケミカル株式会社管理部門及び生産拠点
- 報告対象期間  
2023年4月～2024年3月(一部期間外のトピックスを含みます)
- 次回発行予定 ※2025年6月発行予定です。
- 発行担当部署  
ヤスハラケミカル株式会社 経営統括本部 経営企画部  
TEL (0847) 44-6084 (ダイヤルイン)  
FAX (0847) 45-8639

本報告書に関するご意見・ご質問は上記までお願いいたします。

# ヤスハラケミカル～私たちの考え方～

## 基本理念

自然の恵みと科学技術を融合させる独創企業として、産業と生活の向上につながる活動領域をひろげます。

テルペン化学で培った創造と挑戦の精神をもって、自然界の無限の可能性を引き出し、産業への高品質・高付加価値品の安定供給を通して、社会の発展、便利な暮らし、心豊かな暮らしに貢献します。

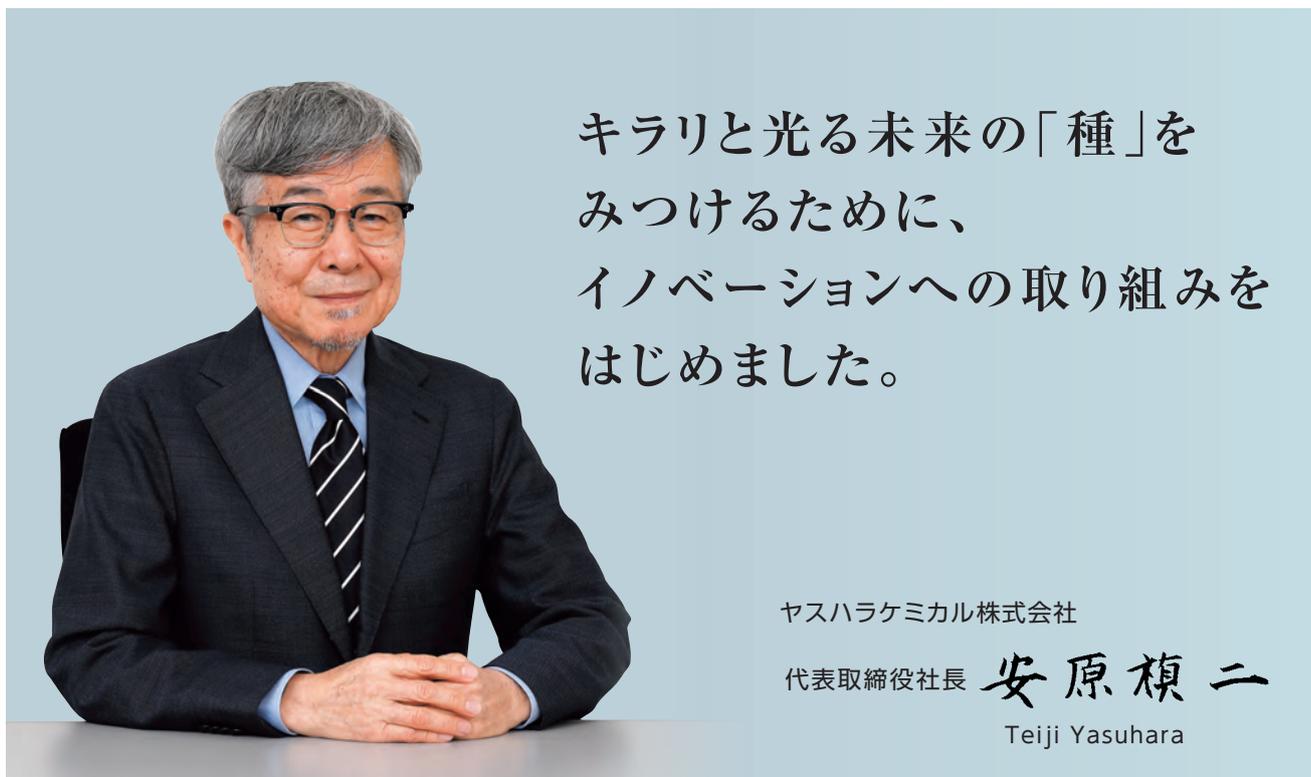
### ヤスハラケミカルの紹介

ヤスハラケミカルは環境にやさしい天然由来の「テルペン」を主原料とする化学メーカーで、粘・接着剤、ゴム・プラスチックの改質剤、香料、塗料の添加剤などの工業原料を製造しています。

### ヤスハラケミカルの目指すところ

私たちは、従来利用されていなかったものに原料としての有効性を見出し、「社会に還元する」精神のもと高付加価値な製品を提供してきました。今後も、事業活動を通じて、社会の発展、持続可能な暮らしの実現を目指してまいります。





キラリと光る未来の「種」を  
みつけるために、  
イノベーションへの取り組みを  
はじめました。

ヤスハラケミカル株式会社

代表取締役社長 **安原 稔二**  
Teiji Yasuhara

## 企業業績や株価の名目上の 数字だけではなく、実体の数字に 留意することが重要です。

この一年間の日本経済は、新聞報道などによれば、円安基調で進んだことで企業の売上が上がり、株式市場も一見好調なようにみえます。しかし円安での恩恵を受けているのは、全体で見れば5%の大企業に限られており、95%にのぼる中小企業の姿を反映したものではないことにも留意すべきです。

また、好調な株価についても、その要因は円安での割安感により海外の投資家から資金が流入しているからです。特に、中国での株式市場や不動産が厳しい状況になったことで、大量の資金が日本に流れてきて株価を押し上げています。

こうしたことから、名目上の数字ばかりが上がり、企業の業績が上がっているように感じる心地よい状態が続いていると

いうのが、この一年間の概況ではないでしょうか。

しかし数量ベースの数字は上がっていないので、中小企業では賃金も簡単に上げることはできません。また金利も、今の状況のままで金利を上げると、中小企業だけでなく社会全体への大きな影響が予想されることから、簡単には上げるわけにはいかないでしょう。企業業績や株価の名目上の数字だけではなく、実体の数字に留意することも重要です。

## 「過去の中に未来へのヒントがある」 この言葉は企業活動の上でも 参考になります。

こんな状況の今だからこそ、産業界も日本社会も、これまでのしがらみや既成概念などを一度捨て去り、未来へ進むギアチェンジが必要だと思っています。そして未来へ進むヒントは、意外にも過去の中に隠れているかもしれません。

たとえば将棋棋士の藤井聡太さんはAIを徹底的に研究

して新境地を切り拓いていますが、そのAIのデータは過去事例の蓄積です。過去事例を自分なりに分析し応用することで、藤井さんは将棋の未来を切り拓いています。

この「過去事例の中に未来へ進むヒントがある」という事実は、企業活動を進める上でも参考にするべきだと考えています。

かつての日本は、既存の優れたものの品質を高めることで差別化をして、競争に勝ってきました。これはプランAのやり方ですが、現在では中国や台湾、韓国などの競合する国々も同じようなことができる時代になってきて、それでは差別化はできません。

これからの時代は、プランBとして、日本の過去にあった歴史や経験から得た技や知恵をヒントに差別化することも一つの方向性になると思います。

## 「小さなユニットでうまくまわす」ことで、 ネイチャーポジティブへ 貢献していきます。

近年の国際的な課題として、地球温暖化への対応と共に生物多様性の課題も重要視され、自然を回復軌道に乗せるというネイチャーポジティブへの貢献が、企業活動でも強く求められています。

戦前までの日本は、紙や燃料などの少ない資源をうまく循環させながら生活することが当たり前の循環型社会でした。副産物を有効に使って育てる有機農法などは、まさに日本が得意とする技や知恵の宝庫です。さらに村のような小さなユニットで、皆と一緒に新しい価値を創り上げていくことも日本人は得意です。

ネイチャーポジティブへの最適解のヒントが、ここにあると思います。

小さなユニットで生産から消費・再生産するまでを計画的・効率的にまわしていくこと、皆が一緒になり協力して生産

性を高めていくことこそ、日本がこれから目指すプランBの道になると期待しています。

ヤスハラケミカルではこうした動きに自ら取り組むべきと考え、新組織「イノベーション推進室」を立ち上げて、これまでの既成概念にとらわれない発想でネイチャーポジティブへチャレンジすることを始めました。

## イノベーションへの取り組みを通じて、 地域や日本を輝かせる光になりたいと 願っています。

ヤスハラケミカルでは、過去10年にわたり筋肉質な生産体制の構築と生産性向上を目指して「生産設備の拡充」と共に「人材育成」に注力してきました。それらの体制を整えた今こそ、未来への「種まき」が必要で、イノベーション推進室はその基点となる組織です。

イノベーション推進室に期待することは、既存の原料調達から市場活動までのサプライチェーンにとらわれず、別の視点やより大きな視野からのアプローチで、資源を循環させながら新たな価値創造をうみだす「種」を見つけ育てることです。

発足からまだ1年程度ですから、その成果が現れ始めるのは、5年先10年先かも知れません。しかし未来には、それらの「種」が育ち「幹」や「花」となり、ヤスハラケミカルを前に進める新たな原動力になるはずです。

私たちのチャレンジは、日本の中では、まだ小さな取り組みに過ぎませんが、その活動によりネイチャーポジティブに貢献したいと考えています。そして、こうした活動が地域や日本をもう一度輝かせる活力の一助になるよう願って、継続的にチャレンジを続けていきます。

# イノベーションの視点で新接点や 新結合を促すことで、 新たな価値づくりに チャレンジします。

2023年4月、社内に新たに「イノベーション推進室」を設置しました。  
今回の特集では、その設立の経緯や役割とともに、  
現在地の状況をご報告します。



イノベーション推進室 室長 吉舎 史晃

## 「イノベーション推進室」設立の経緯

イノベーション推進室が正式にスタートしたのは昨年(2023年)4月ですが、構想は2022年の夏ごろからありました。

その当時、私は研究部門の責任者として働いており、以前から新商品開発や新技術のための情報収集は行っていたのですが、新たな部署として、業務の定義や内容を上手く設定できるかは不安でした。ただ、研究開発には、既存の市場や領域の中で応用していくものと、全く別の切り口で市場に新しい価値を示していくものがあります。今のお客さまや事業をまず大切に、確実性の高いものをきちんと達成していく土台があって、初めて安心して新たなことに挑戦ができますから、現実的には前者の資源配分や優先順位が高くなります。一方で後者では、まだ具体的に見えて

きていないチャンスやリスクの兆候を見つけるために未知の領域に飛び込んだり、確実性が測りにくい新たな活動を試験的に実施する必要も出てきます。

前者と独立して専門的に活動できることは、それらの促進に効果的な面もありますので、研究開発の仕事の中で、新接点を見つけ新結合を促すようなイノベティブな仕事に特化した専門組織として、イノベーション推進室が発足しました。「イノベーション」とは、革新的・最先端の技術や製品の開発という意味もありますが、「今までにあるものも積極的に使いながら」「さまざまな相手とのコラボレーションを通じて」、新たな視点や価値観を作っていくことを意識しています。

### 【イノベーション推進室の戦略方針】

#### イノベティブな切り口

これまで使われていなかったものの利用  
これまで使われていなかった用途・市場での利用  
バイオマス製品であることでの展開の推進

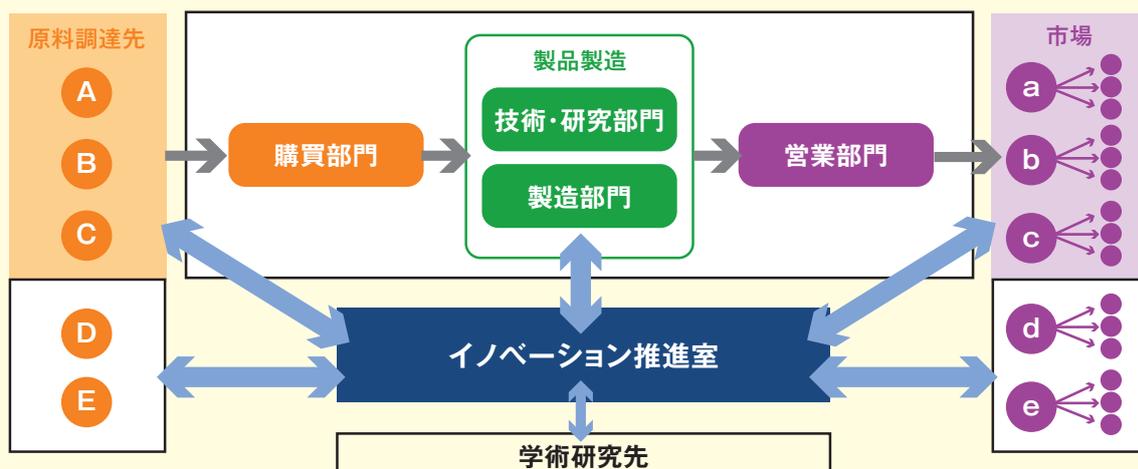
### 【2024年度活動方針】

以下の事項に貢献できる企画・情報収集・初期検証を行う

- 1 ネイチャーポジティブに貢献するため、新しいサプライチェーンの中での接点を探索し、立ち位置を確立する
- 2 既存含む技術・市場・顧客関係性等の新結合を進め、以下の事項を推進する。

◎これまで使われていなかったものの利用 ◎未開拓の用途・市場での利用促進 ◎バイオマス製品としての展開

【「イノベーション推進室」の役割と立ち位置】



「イノベーション推進室」は、従来のサプライチェーンの枠組みにとらわれず、調達先にも市場にも、学術研究先にもフリーアクセスして、新利用や新結合を推進する。

「イノベーション推進室」のスタッフ構成と日々の活動

設立時の4月は私を含め4名体制でスタートし、8月に技術検証のためのスタッフを1名追加して、現在5名体制で仕事をしています。

従来の研究部門との大きな違いは、これまで見えていなかったり、見えていてもさまざまな制約から手がけるのが難しかった領域にアプローチしたり、新たな調達やお客さま候補との連携を模索することです。昨年5月にはコロナによる移動制限もなくなったことから、現在は国内・海外の新たな研究機関やサプライヤー、お客さま候補とのネットワーク構築のために動きまわっています。

具体的には、今ある製品や開発品を新たな業界のお客さまに提案したり、今使っているテルペン原料以外で我々が使える天然素材がないかを調べたり、テルペンのような天然素材を欲している新たな市場がないかを調査することが主な仕事です。調査や開発的な外部コンタクトだけでなく、製品や開発品の新しい機能や初期技術検証を行い、自部署でも実験や外部委託によるデータ取得を心がけています。また当社や製品をより幅広く認知してもらい、新たな接点を増やす活動として、展示会の出展や執筆・講演等も行っています。

一年間で見えてきたことと、これから見えそうなこと

イノベーション推進室は「新たな相手先とのコラボレーションにより未来のビジネスへの道筋を見つける」という難しいテーマの実現を目指しています。そのためには軸が必要で、この一年は「環境」を軸にして収集活動を行ってきました。手探りの状態からはじめ、一年かけてようやく少しずつ進むべき方向性が見えてきたところです。

例えば、現業とは関係ない領域の会社との接点を探るため、昨年アイルランドで開催されたバインケミカルの国際会議に参加しましたが、そこで航空機のサステナブル燃料の可能性を探るために参加していた研究機関やメーカーとの接点を得ることができました。また、当社原料のテルペンは森林や果樹資源由来のもので

すが、国際的に森林資源の活用について関心が高まっていることから、国内外の新たな森林関連企業や団体にアプローチし、さまざまなコラボレーションの可能性が出てきました。さらには、海外企業はクリーンな天然由来の溶媒「グリーンソルベント」への関心も高く、その市場にアプローチするための取り組みも進めています。

一方で、海外でのサステナブルマテリアルやバイオベース材料への関心の高まりはあるのですが、関連規則や仕組みに関しては多岐にわたります。副次的ではありますが、関連機関へのコンタクトによる初期調査と共有も行っており、こういった活動でも社内外に貢献できれば喜ばしく思います。

ヤスハラケミカルと日本の未来のために

先日、カーボンニュートラルを推進するためのGX(グリーントランスフォーメーション)をご研究されている先生とお会いし、中間材メーカーの社会的役割について話す機会がありました。その先生から「中間材メーカーは、川上から川下までサプライチェーン全体を見渡す視野がある。サプライチェーン全体のバリューを上げる上で、中間材メーカーが果たすべき役割は大きい」との言葉をいただきました。

これこそ私たちが目指す方向性で、イノベーション推進室が

果たす新接点や新結合は、ヤスハラケミカルの価値を高めるだけでなく、サプライチェーン全体、ひいては日本のバリューも高めていく可能性があると思います。

これからもイノベーション推進室の果たすべき社会的役割を大切に考え、トライアンドエラーしながら、より幅広い視野で果敢なアプローチを行い積極的にチャレンジしていきたいと考えています。

## 中長期的経営方針

当社は、設備と人の両面から、体質改善による基盤強化を推進しています。中長期的経営方針としては、収益性改善、新規開拓、グローバル展開を掲げ、積極的に取り組んでまいります。

### 「人のチカラ」

中長期的経営方針で掲げた目標を達成するためには、「人のチカラ」が最も重要であることを強く認識しています。そのため、社員の意識改革に繋がる教育投資、自律型人材育成を積極的に推進してまいります。ヤスハラケミカルは、従業員一人ひとりが筋肉質になることを目指しています。筋肉質であるためには、例えば、情報をただ集めるだけではなく、読書などにより知識を増やし、情報を編集する力を身につけることが必要です。知識が増えると、視野が広がり、創造性が育まれ、競争に負けない力を発揮できるようになると考えています。長期的視点に立って、「人のチカラ」を伸ばしていきます。

### 収益性改善

高収益製品の売上増加、工場の合理化の推進を図ることで、利益を創出する収益構造を確立します。



収益性  
改善

人のチカラ



グローバル  
展開

新規開拓



### グローバル展開

新興国市場など成長を取り込める事業を展開している顧客を重点的かつ積極的に探索することで、海外市場の新規開拓と拡大を目指します。

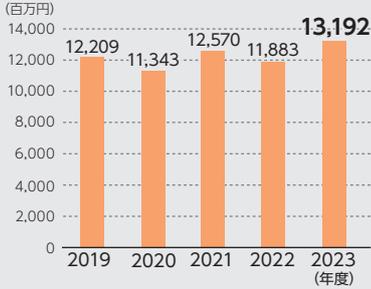
### 新規開拓

研究開発と事業化の加速を図りながら、付加価値の見込める分野、用途を積極的に開拓します。

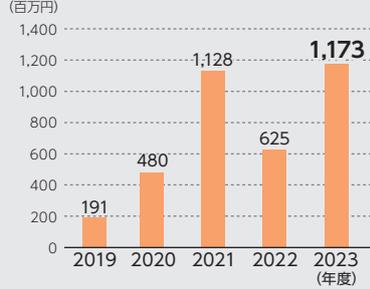


財務ハイライト

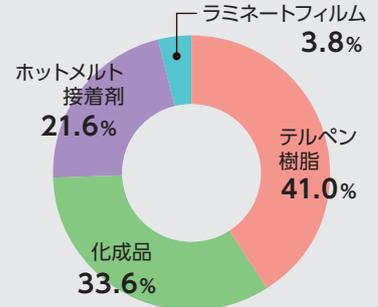
●売上高の推移



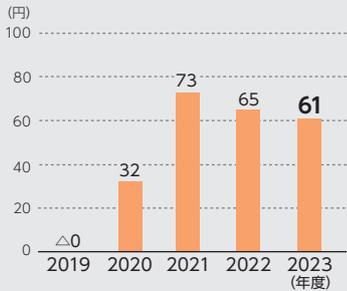
●経常利益の推移



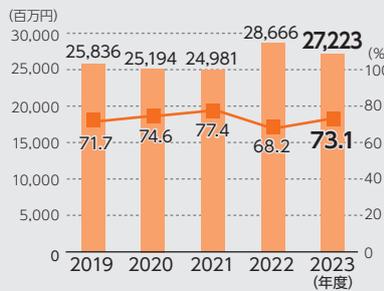
●部門別売上比率(2023年度)



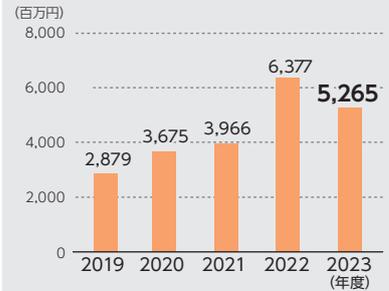
●1株当たり純利益又は1株当たり純損失(△)



●総資産/自己資本比率



●現金及び現金同等物の期末残高



【部門別状況】

テルペン樹脂

近年は、環境対応製品や自動車関連部品、光学・医療などの高付加価値分野のほか、高い再生可能資源利用率や耐候性・耐熱性といった特徴が活かされる分野の開拓に注力しています。

●売上高の推移



化成品

本事業の収益性向上のため、電子部品向け溶剤や特殊化学品の拡販と、環境対応分野や生理活性分野などテルペン類の機能が活かせる用途開拓に努めるとともに、生産設備の合理化を推進しています。

●売上高の推移



ホットメルト接着剤

熱安定性の良い包装用接着剤の展開と、透明性が高く、加工性の優れた食品包材用押出し樹脂の実用化を進めています。また、海外法規制対応品の開発・製品化を進めています。

●売上高の推移



ラミネートフィルム

出版物や各種カタログ等の表面光沢加工用として長年実績があり、その技術を活かしサック貼り用OPPの熱ラミ加工を行い、本事業の収益性向上を推進しています。

●売上高の推移



ヤスハラケミカルは、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行うことで、持続可能で豊かな環境づくりに貢献していきたいと考えています。

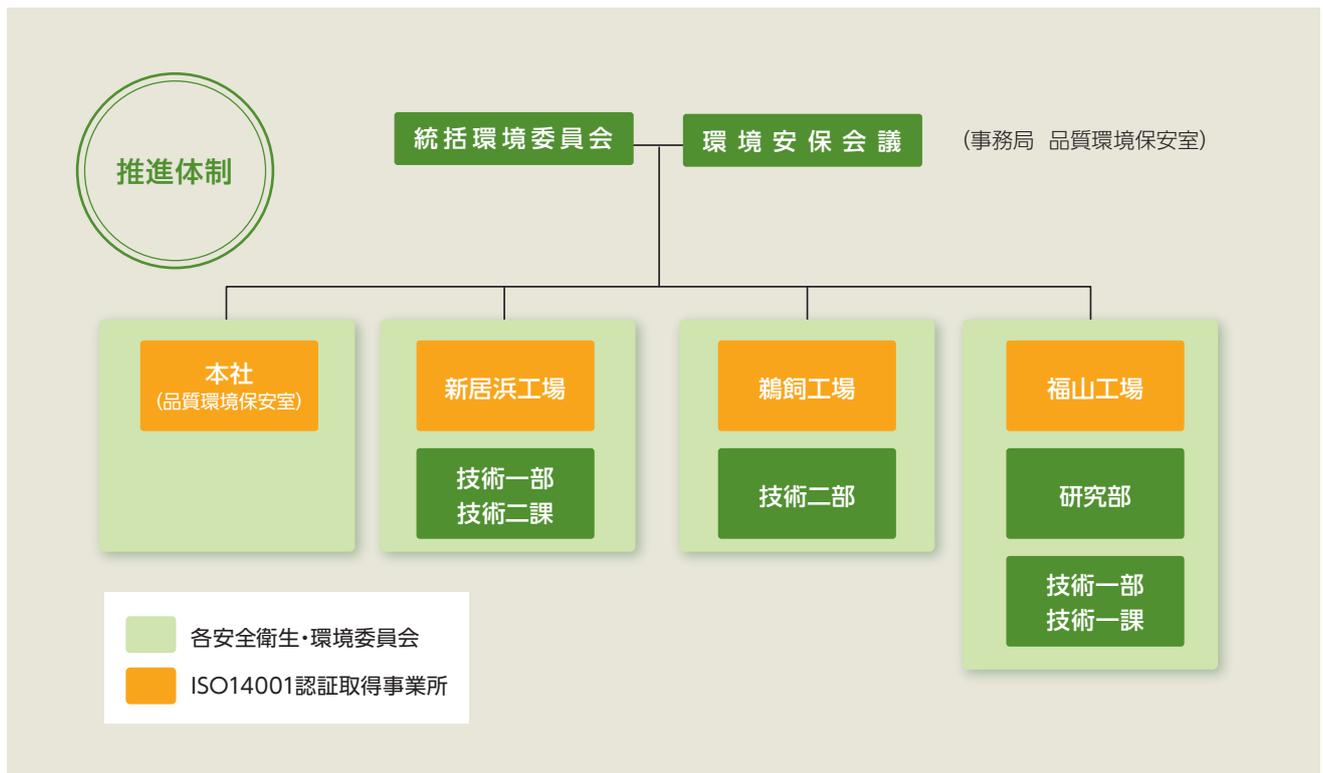
### 《 環境・安全に関する基本方針 》

- 1 天然物の有効活用による安全で環境負荷低減型製品の開発により、各産業分野における地球環境保護(省資源、リサイクル、健康有害物の排除など)の推進に貢献する製品を提供することで社会に貢献します。
- 2 製品の開発から廃棄に至るまでのライフサイクル全般にわたり、環境負荷の低減を図り、環境保護に努めます。
- 3 無事故・無災害の操業を継続し、従業員と地域社会の安全を確保します。
- 4 原料、製品の安全性を確認し、従業員、物流業者、顧客など関係する人々への健康障害を防止します。

全従業員は、この方針の重要性を認識し、法令、規格及び社内ルールを順守するとともに、常に改善に努力すること。

2006年5月2日

ヤスハラケミカル株式会社 代表取締役社長 安原 禎二



## 目標達成状況

### 2023年度の具体的目標と実績

ヤスハラケミカルでは、各工場での環境目標を数値設定・励行することで、事業活動全体における環境負荷の削減を推進しています。

環境活動の目標と実績				
活動テーマ	2023年度目標	2023年度実績	評価	2024年度目標
環境マネジメントシステム (EMS)の推進	EMS認証取得3工場の認証維持	EMS認証取得3工場の認証更新	○	EMS認証取得3工場の認証維持
省エネルギーの推進	エネルギー原単位前年度比1%削減	エネルギー原単位前年度比0.8%削減	×	エネルギー原単位前年度比1%削減
温室効果ガスの排出削減	CO <sub>2</sub> 排出原単位前年度比1%削減	CO <sub>2</sub> 排出原単位前年度比3.0%減少	○	CO <sub>2</sub> 排出原単位前年度比1%削減
産業廃棄物の削減	産業廃棄物排出原単位削減	産業廃棄物排出原単位2.4%増加	×	産業廃棄物排出原単位削減
	産業廃棄物排出量削減	産業廃棄物排出量0.8%削減	○	産業廃棄物排出量削減
化学物質の適正管理	PRTR排出量削減	PRTR排出量7.1%増加	×	PRTR排出量削減
	化学物質リスクアセスメントの継続実施	化学物質リスクアセスメントの継続実施	○	化学物質リスクアセスメントの継続実施
災害・事故	休業災害・事故ゼロ	休業災害0件 事故0件	○	休業災害・事故ゼロ
環境・社会報告書発行	年1回発行	6月発行	○	年1回発行

○目標を達成 ×目標を達成できなかった

### 優良危険物取扱者表彰

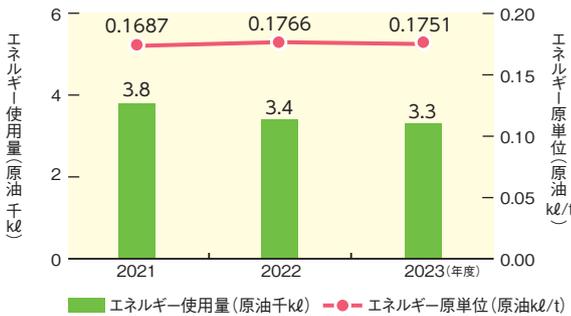
2023年5月23日(火)に開催された福山地区危険物安全協会の定例総会において、鶴飼工場の江村彰彦さんが、優良危険物取扱者として表彰を受けました。江村さんは、永年にわたり危険物による事故防止と安全管理に精力的に取り組んだ成果が認められたものです。



## 事業活動における環境配慮への取り組み

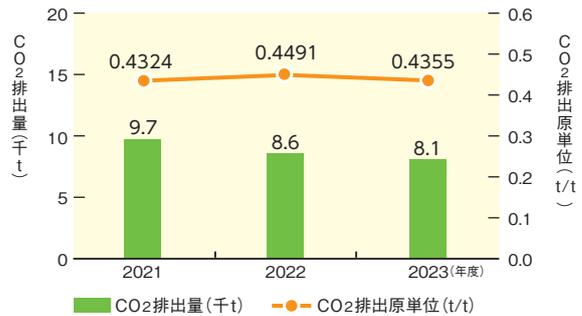
### エネルギー原単位

2023年度のエネルギー原単位は、設備投資・生産稼働効率の改善により、前年度比0.8%減少しました。



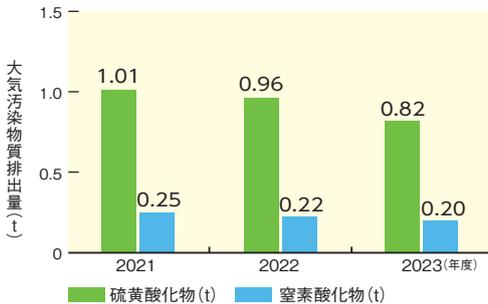
### CO<sub>2</sub>排出原単位

2023年度のCO<sub>2</sub>排出原単位は、排出量を抑制する設備導入などにより前年度比3.0%減少しました。引き続き削減に努めます。



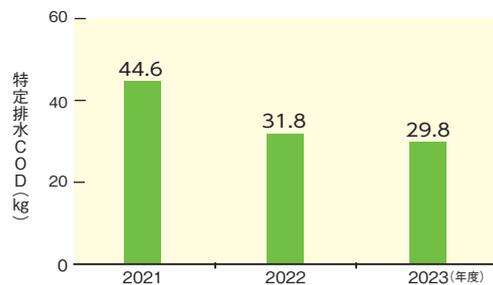
### 大気汚染物質の排出量

2023年度の硫黄酸化物排出量は前年度比14.5%減少、窒素酸化物排出量は前年度比6.6%減少しました。



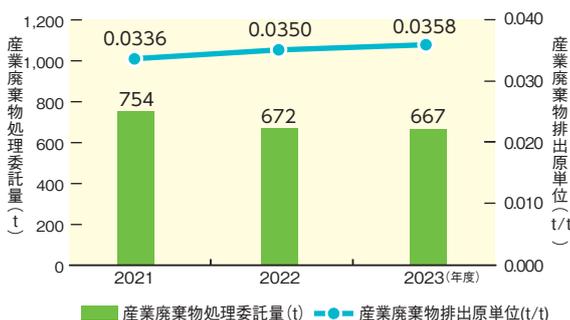
### 特定排水COD負荷量

2023年度の化学的酸素要求量(COD)負荷量は、前年度比6.3%減少しました。



### 産業廃棄物排出原単位

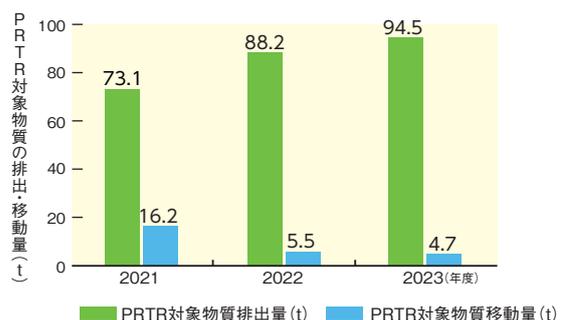
2023年度の委託量は前年度比0.8%減少したものの、生産量が3.1%減少したことにより、産業廃棄物排出原単位は前年度比2.4%増加しました。



### PRTR※対象物質の排出・移動量

2023年度から新たに対象物質の追加により、排出量は前年度比7.1%増加しました。移動量は、前年度比15.3%減少しました。

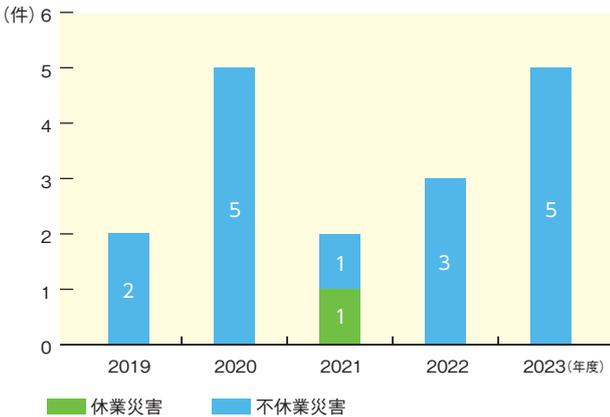
※PRTR:人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、事業所から環境(大気、水、土壌)へ排出される量および廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を、事業者が自ら把握し国に届け出をし、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計・公表する制度です。



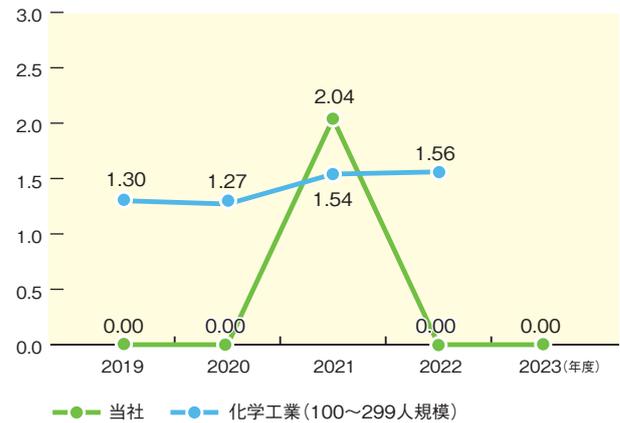
## 安全衛生への取り組み

従業員の安全衛生に関するリスクを評価し、安全を最優先に事業活動を行っています。また、メンタルヘルス不調予防のためにストレスチェックを導入するなど、安全・健康そして快適な職場づくりに取り組んでいます。

### 労働災害発生件数の推移



### 休業災害度数率の推移



※度数率は、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生 の頻度を表す。

$$\text{度数率} = \frac{\text{労働災害による死傷者数}}{\text{延べ実労働時間数}} \times 1,000,000$$

※出典：厚生労働省「労働災害動向調査」の「用語の解説」(6)項アから引用

### 安全衛生・環境に関する資格の保有者数

安全衛生・環境に関わる必要な資格の積極的な取得に努めています。法的に定められた先任者は充足していますが、新入社員をはじめとした若手従業員を中心に資格取得の推進を図り、スキルアップにつなげています。

資格名称	2023年度保有者数*(名)
公害防止管理者	13
エネルギー管理士	11
衛生管理者	23
ボイラー技士・整備士	39
危険物取扱者	152
消防設備士	22
高圧ガス製造保安責任者	48

※2024年2月29日時点の各工場勤務者

#### COLUMN

#### 消防合同訓練

災害発生時の対応力強化のため、福山南消防署と合同で、総合防災訓練を実施しました。休日を想定して交替班7名の出勤体制時に、研究部危険物倉庫が火元になる訓練を実施しました。



## お客様への取り組み

### 品質管理

#### 品質方針

お客様の満足と信頼をいただくために、常にニーズに合った品質の製品を経済的、安定的に提供します。

取締役 生産本部本部長 栗本 倫行

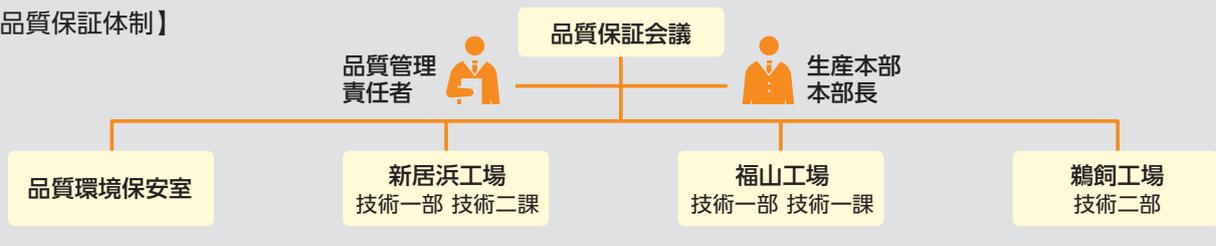
ISO 9001  
取得状況

適用工場	新居浜工場、福山工場、鶉飼工場
登録番号	JCQA-0472
認証機関	日本化学キューエイ株式会社

品質マネジメントシステムISO9001:2015を運用し、顧客満足向上、品質向上に努めています。

品質保証活動を全社で推進するため、品質保証会議を合同で定期開催し、お客様からのご要望やご指摘を共有するとともに、工場の問題点などを明確にして解決策を協議しています。今後も製品品質の維持管理や改善に努めます。

#### 【品質保証体制】



## 株主・投資家の皆様への取り組み

### 株主総会

当社は、より多くの株主様にご出席いただけるよう、総会を集中日より早期に開催するとともに、株主総会招集通知の早期発送ならびに早期開示を行っています。

2023年6月22日に開催した第65期定時株主総会は、多数の株主の皆様にご参加いただきました。総会後には近況説明会を開催し、当社の経営方針や業績予測について説明を行うとともに、株主の皆様からのご質問にお答えさせていただくなど、株主の皆様との対話の場を設けました。



### IR活動

株主・投資家の皆様に向けて、業績、経営戦略、その他当社をご理解いただくために有用な情報を、適時適切に開示しています。ホームページ内の「IR情報」における迅速な情報発信に加え、日々のお問い合わせへの対応等を通じて、株主・投資家の皆様とのコミュニケーションの充実に努めます。



### 株主還元

当社では中長期的な視点からの株主の皆様への利益還元を重要な政策と位置付け、継続的かつ安定的な配当を実施しています。

## 従業員への取り組み

### 》》 仕事と家庭の両立支援

育児や介護といった家庭の事情と仕事を両立できるよう、育児休業制度、介護休業制度、育児・介護短時間勤務制度といった両立支援制度を取り入れています。従業員への認知も定着し、また制度を活用しやすい職場環境を整えたことで、2023年度もさまざまな人が制度を利用しました。



制度	概要	2021年度	2022年度	2023年度
育児休業制度	子が1歳に達するまで (一定の条件のもと、最長2歳まで延長可能)	3名 (内男性1名)	4名 (内男性3名)	5名 (内男性4名)
介護休業制度	要介護状態の家族がある場合、 通算93日間まで(3回を上限として分割取得可)	0名	0名	0名
育児短時間勤務制度	子が小学校3年生終了まで勤務時間を 9:00~16:00(または16:30)に短縮可能	10名	10名	10名

### 》》 サステナビリティ研修、情報リテラシー研修

目まぐるしく変化する環境に適応し企業価値を向上させるために、サステナビリティへの理解を深めるための研修を行いました。また、デジタルの活用必須となるITリテラシーの向上のための情報リテラシー研修を行いました。業務の生産性向上を通じ、新しい価値の提供による企業価値の向上を目指します。



情報リテラシー研修



役員トレーニング

## 地域社会への取り組み

### 》》 清掃活動

地域社会への感謝の気持ちを込めて、本社事務所、各工場周辺の清掃を行っています。



### 》》 スポーツ支援

当社は、女子バレーボール市民クラブチーム「岡山シーガルズ」の応援を通じて、スポーツ振興に取り組んでいます。定期的で開催される同チームによる府中バレーボール教室を共催するなど、地域に根ざした活動を展開しています。

### 》》 地域防災への参加

新春恒例行事である2024年福山消防出初式に、当社からは甲種普通化学消防車により5名が参加しました。当社消防隊は、危険物屋外タンク火災を想定した消火訓練に参加しました。



### 》》 職場体験学習

地域の学校の生徒を対象に、職場体験学習の受け入れを行っています。2023年度は鶴飼工場に2名の中学生が職場体験学習に訪れました。



<https://www.yschem.co.jp>



ヤスハラケミカル株式会社

〒726-0013 広島県府中市高木町1071番地 TEL:0847-45-3530 FAX:0847-45-8639

UD FONT  
見やすいユニバーサルフォントを  
採用しています。